

平成 26 年 6 月 5 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23790698

研究課題名(和文)長崎県における結核患者発見の遅れとその背景についての調査

研究課題名(英文) Survey of delay among tuberculosis patients found in Nagasaki Prefecture and its background

研究代表者

塚本 美鈴 (TSUKAMOTO, MISUZU)

九州大学・大学病院・助教

研究者番号：60423638

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円、(間接経費) 750,000円

研究成果の概要(和文)：平成24年1月1日～平成25年12月31日までに長崎県において新たに肺結核と診断され、協力同意の得られた保健所または結核病床を有する医療機関に登録された患者を対象に、カルテ、患者登録票を用いて情報収集を行った。塗抹陽性者について64歳以下の受診の遅れは21.7% (5例/23例中)、65歳以上では7.9% (5例/63例中)で64歳以下群で若干受診の遅れの割合が多かった。一方、診断の遅れを見てみると、64歳以下群で12.5% (3例/24例中)、65歳以上群で32.9% (27例/82例中)と、65歳以上群で診断が遅れる傾向にあった。発見の遅れについては両群に差は見られなかった。

研究成果の概要(英文)：Since 1/January/2012 to 31/December/2013, the information of tuberculosis patients who were newly registered to medical institutions or health center in Nagasaki prefecture obtained the cooperation agreement were gathered using medical records or registration records. Among smear positive patients, the number of patient's delay among the patients who were less than 65-year-old was 21.7 percent (5/23 cases) and at 65 years of age or more was 7.9% (5/63 cases). The percentage of patient's delay was slightly higher among the patients less than 65 years of age. On the other hand, diagnosis delay among patients less than 65 years of age was 12.5% (3/24 cases) and among patients 65 years old or more was 32.9% (27/82cases). The percentage of diagnosis delay was higher among patients 65years and over group. Regarding to tal delay, no differences were observed in the two groups.

研究分野：社会医学

科研費の分科・細目：公衆衛生学健康科学

キーワード：結核 発見の遅れ 高齢者

1. 研究開始当初の背景

日本の有症状肺結核患者における「発見の遅れ」については、大森らによると、2008年3カ月以上の割合（長期発見の遅れ）をみると全体では18.1%であるが、排菌数の多い喀痰塗抹陽性患者で、かつ30～59歳の男性に限ると、長期発見の遅れは27.0%にもなる。この大きな理由は患者側の「受診の遅れ」にあるという調査分析結果がある。2009年の結核統計によると、長崎県における発病から初診まで2か月以上経過している割合は17.9%と全国平均とほぼ同数であったが、長崎県は大小約600の島々をもつ全国一の離島県で、人口約145万人のうち、約10%が離島在住であるという特徴がある。これら離島には高齢者が多く在住している上、結核病床を有する指定医療機関や呼吸器・感染症専門医あるいは保健所までのアクセスが非常に悪い状態にあるといえる。これらの事は患者発見の遅れにつながる要因かもしれない。また、未だ結核に対する偏見も一部では存在している。長崎における外国人については、中国からの集団就職、そのほか結核蔓延国からの留学生も多く、これらの中からの発症者を早期に発見する事も重要である。このように、日本全体における結核患者発見の遅れについては経時的また社会的背景も詳細な調査結果が存在するが、離島県、地方特有の高齢化が進むといった特長の見られる長崎県におけるこのような詳細な調査の報告は見られない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、長崎県における結核患者発見の遅延の状況と社会人口学的情報、結核に対する知識および認識、居住地域での結核に対する差別や恥辱など、その背景を調査し、発見遅延の関連要因を分析することとした。これにより、高齢化が進む長崎県における早期結核発見のための政策策定ひいては結核対策のあり方についても検討する。

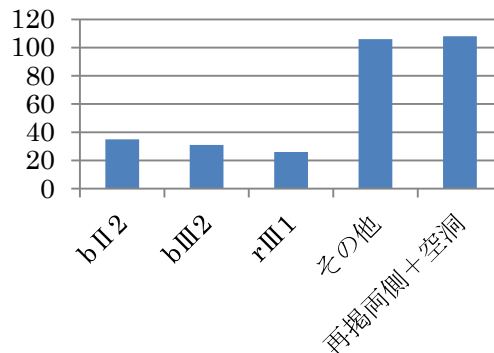
3. 研究の方法

平成24年1月1日～平成25年12月31日までに長崎県において新たに肺結核と診断され、協力同意の得られた保健所または結核病床を有する医療機関に登録された患者を対象に、カルテ、患者登録票を用いて情報収集を行った。患者本人より同意が得られた場合は質問用紙を用いて個別面談インタビューを行った。これまでのところ210症例の情報収集を行うことができた。

4. 研究成果

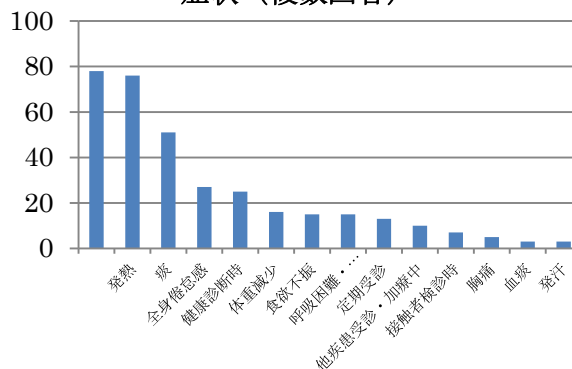
男性108例、女性101例（1例不明）、平均年齢は71.5歳±19.8（中央値78歳）であった。年齢層では65歳以上が73.8%、75歳以上でみると61%と高齢者での罹患が目立つことは他報告と同様であったが、塗抹陽性者は126例であった。居住区は保健所管轄別

にみると、長崎市80例、佐世保市60例、県南と県北がそれぞれ16例、県央と五島が13例、西彼が7例と続いた。病型ではbⅡ2が35例、bⅢ2が31例、rⅢ1が26例となり、全体では両側かつ空洞をもつ症例が108例と病変が広範囲におよぶ症例が過半数を占めた。



受診契機となった症状では咳が78例、発熱76例、痰51例、全身倦怠感27例、健康診断時25例、体重減少16例、食欲不振15例、呼吸困難・息切れ15例、定期受診の際13例、他疾患受診加療中（肺炎含む）10例、接触者検診時7例、胸痛5例、血痰3例、発汗3例と続いた（複数回答）。

症状（複数回答）



塗抹陽性者について症状発現から初診日「受診の遅れ(Patient delay)」を2ヶ月以上、初診日から登録日までの「診断の遅れ(Doctor delay)」を1ヶ月以上、およびその和（症状出現日から登録日）を「発見の遅れ(Total delay)」3ヶ月以上として分析を行なった。その結果、64歳以下の受診の遅れは21.7%（5例/23例中）、65歳以上では7.9%（5例/63例中）で有意差は見られなかったものの(p=0.077)、64歳以下群で若干受診の遅れの割合が多かった。

	受診の遅れあり	受診の遅れなし
64歳以下	5(21.7%)	18(78.3%)
65歳以上	5(7.9%)	58(92%)

P=0.077

一方、診断の遅れを見てみると、64歳以下群で12.5%（3例/24例中）、65歳以上群で32.9%（27例/82例中）と、有意差は見られなかったものの（ $p=0.051$ ）、65歳以上群で診断が遅れる傾向にあった。発見の遅れについては両群に差は見られなかった。

	診断の遅れあり	診断の遅れなし
64歳以下	3(12.5%)	21(87.5%)
65歳以上	27(32.9%)	55(67.1%)

$P=0.051$

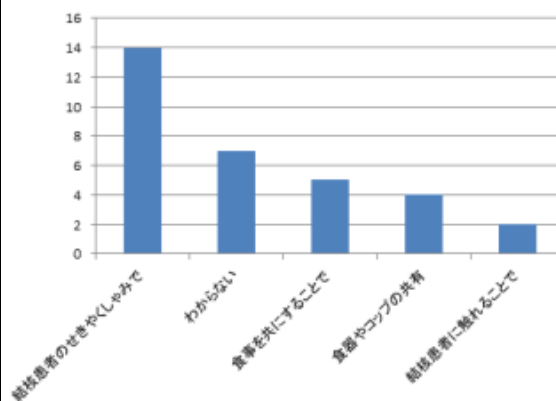
塗抹陽性者における受診行動パターンについては、診断の遅れがあった群では、初診は開業医、次に呼吸器科のある病院を受診：8例と最も多く、呼吸器のある病院のみで診断：6例、呼吸器科のない（または不明）病院を受診したのち呼吸器科のある病院受診：5例、開業医または呼吸器科のない病院での診断が4例であった。一方、呼吸器科がある病院を受診し診断がつかず、次に呼吸器科のある他病院受診が4例、開業医の次に呼吸器科のない（または不明）の病院受診が3例であった。初診受診の医療機関（薬局含む）が、開業医または呼吸器科のない（または不明）の病院であった群と、当初より呼吸器科のある病院を受診した群に分け、診断の遅れの有無について解析を行った。その結果、診断の遅れがあった群では30例中20例が当初開業医または呼吸器科のない（または不明）医療機関を受診し、診断のおくれがなかった群では76例中47例が当初開業医または呼吸器科のない（または不明）医療機関を受診していた。しかしながら統計学的有意差はみられず、医療機関の種類と診断の遅れに関しては関係がなさそうであった。

	呼吸器科なし (または不明) 開業医	呼吸器科
診断の遅れあり	20	10
診断の遅れなし	47	29

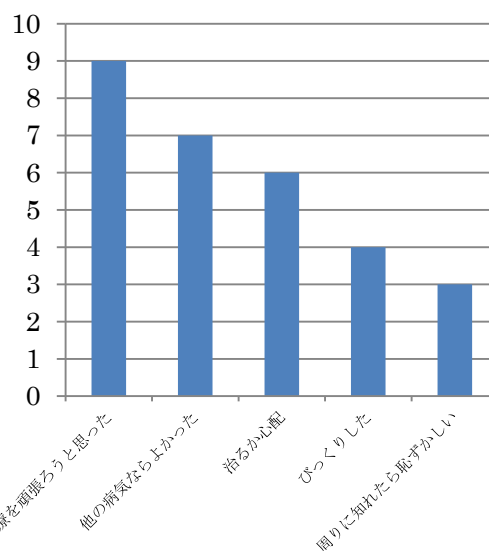
$X^2=0.215$ 、 $p=0.643$

個人のインタビューでは結核という病気についての情報源としては過去の罹患や、知人友人が結核だった、あるいは昔は多かったという方が17例で最も多く、その他は診断までほとんど聞いたことがなかったと回答した。また結核の伝播様式については14人で正しく回答されたものの、その他はわからない、結核患者に触れることで、食事を共にすることや食器やコップを共有することでいった誤った認識も11人でみられた。わからないと答えたものは7人であった。

伝播様式(複数回答)



診断時の気持ちについては治療を頑張ろうと思った人が9人、続いて他の病気ならよかった:7人、治るか心配:6人、びっくりした:4人と続いた。また周りに知れたら恥ずかしいと回答した人が3人であった。



居住地域における結核に対する差別的感情としてはたいていの人は拒絶・差別的な態度をとると思うと回答した人は1名に留まった。結論：65歳以上の高齢者では64歳以下と比較して受診の遅れは多くはなかったものの、診断が遅れがちになるケースが多く見られた。その中には呼吸器症状以外の症状を持って受診したもの、あるいは他疾患にて入院中に発見されたものが目立ち、結核罹患率の多い長崎においては特に高齢者を診察する場合には他疾患にて受診された場合でも常に結核を念頭に置き、呼吸器症状以外の症状の聴取と積極的な胸部レントゲン撮影は有用かもしれない。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 2 件）

- ① 第 29 回日本環境感染学会（東京）2014 年 2 月 14 日～2 月 15 日
 - ② 第 89 回日本結核病学会（岐阜）2014 年 5 月 9 日～5 月 10 日
- 〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

塚本 美鈴 (TSUKAMOTO Misuzu)

九州大学病院油症ダイオキシン診療研究センター・助教

研究者番号：

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：